

日本の展望委員会「世界とアジアのなかの日本分科会」

第3回会合 議事録

日時 2008年11月21日(金) 午前10時から午後12時20分

場所 日本学術会議5階 会議室5C-2

出席 猪口、小林、渡邊、廣瀬、田原、武林、伊藤、末廣(記録)。

欠席 新川、磯貝、毛里、小野、岸。

(事務局) 齋藤、尾野、中島

議 論

1. 猪口委員長より、健康・生活科学委員会の田原淳子氏が本分科会に新たに参加されるとの紹介があった。その後、田原委員より「健康・スポーツ科学」が専攻で、国際社会における日本のオリンピック史などを研究しているとの自己紹介があった。

2. 事務局より、「日本の提言」の10のテーマ別分科会に関連する過去の声明、提言、答申、報告、対外報告などのリストについて説明があり、草案を作成するにあたって参考にしてほしい旨の発言があった(添付資料参照)。なお、委員から「記録」の一覧が欠落しているが、記録の中には重要なものも含まれており収録すべきではないか、そして、提言などが実際の政策に与えたインパクトについての評価も併記すべきではないか、などの意見が出された。

→「記録」は図書館にて保管するとともに、原則電子媒体化してHPに掲載し外部からもアクセス可能とすることとなっている。ただし、現時点ではまだHP掲載の準備が整っていない。

3. 田原委員より、当日配布された資料「健康・スポーツ科学の立場から」にもとづき、「日本の提言：世界とアジアの中の日本」と健康・スポーツ科学の位置づけ、少子高齢化社会との関連、自然科学的・人文社会科学研究の現状に関する紹介がなされた。

4. 「たたき台3」をめぐって討議し、マトリックスの構成には基本的に合意しつつ、まず提言の全体的な方向性や基本となるメッセージを決めるべきであることを確認した。その結果、猪口委員長の提案により、タイトルを次のようにすることで合意した。

*人間中心のアジア、世界に活躍するアジア：互惠と互啓の精神にもとづいて(Global and Human Asia: The Spirit of Mutual Benefits and Enlightenment)。

5. 分科会の名称である「世界とアジアの中の日本」をどう理解するかについて、<世界>と<アジアの中の日本>と捉えるか(廣瀬)、<世界の中の、そしてアジアの中の日本>と

捉えるか（小林、末廣）で議論した。そして、アジアの中の多様性を意識しつつ、日本がアジアに向けてどう発信するかを重視する点で了解した。

6. マトリックスの9つの分野・課題について、「日本の展望」の10のテーマ別分科会が取り上げる予定の課題との重なり合い、事務局がまとめた過去の日本学術会議の声明、提言、報告、対外報告との関連性について、末廣のほうでまとめることを了解した。

7. 9つの分野・課題については、会合のあと非公式に次のような分担と役割を議論した。

A-I 小野、A-II 廣瀬、A-III 猪口、B-I 磯貝、B-II 武林、田原、B-III 渡邊、新川、C-I 伊藤、C-II 分担者なし（テーマ4「地球環境科学と人類的課題」分科会が正面から扱うため）、C-III 末廣。総括は猪口、小林、毛里。

それぞれ、①分野別の課題についての現状の認識、②主として日本を中心とする学術的研究の実態、③アジア地域に向けて日本が知見を積極的に発信すべき課題、の3点について、まずメールによって意見を交換し、提言の草案内容を具体化させていく。

8. 次回の会合についてはとりたてて日程は決めなかった。当面はメールによる意見交換で2009年4月の中間報告に向けて準備することで了解した。

以上。

表 「世界とアジアのなかの日本」分科会で取り上げる問題群と分野のマトリックス表

	A. ガバナンス?	B. 生活	C. エネルギー
キーワード	安定	安心・安全	持続性
[I] 技術や制度枠組みを必要とするもの	法とルール#	食 品	省エネ・代替エネルギー
	*法整備の支援 *ルールの形成 (比較法学など)	*食糧の安定確保 *食品の安全 (農学、バイオ、衛生学)	*省エネの取り組み *代替エネルギー開発 (?)
[II] 身体的な安全を保障するもの	平 和	健 康	エネルギーの生産・供給
	*人権の保護・暴力解放 *紛争の処理 (国際政治、平和学、物理学なども)	*広域感染症など *医療と保健 (公衆衛生学など)	*多様なエネルギー *供給の安定化 (?)
[III] 社会の仕組みや社会設計にかかわるもの	参 加	家 族	環 境
	*政治・意思決定への参加 *民主主義・地方分権 (政治学など)	*家族の規範強化か 多様な家族形態か? (社会学、ジェンダー)	*地球温暖化問題 *環境との共存 (環境学その他)

* 表は、2008年10月2日の議論をベースに、末廣が補足してとりあえず作成したものである。

(注記) 1) 全体の枠組みは、「人間が安全で、安心して、安定した生活を送るためには、どうすればよいか」

国連開発UNDPの「人間の安全保障」概念や Millenium Development Goals (MDG) は、目標として決して否定するものではないが、概念が広すぎる、アジア諸国にとっては「国際機関からの受け売り」「またか！」といった印象をもたれやすく、インパクトがないなどの理由で、キーワードに使用しない。

2) 問題群Aについて、どういう言葉を設定するか。「ガバナンス」はひとつの候補であるが、非欧米圏では理解がむづかしい概念。タイでは Thammaphiban、つまり「仏法にもとづく正しい行い」と訳されており、中国は「治理」。適当な言葉があれば差し替える。

3) 法整備支援などは、安定的な政治体制や社会体制の基盤を支えるものである。ただし、欧米諸国の制度の輸入や制度化を意味しない。

4) 「民主化」はアジア諸国で理解が異なる。「政治や意思決定への参加」という広がりな中で捉える。

5) [I] の技術・制度的なものは、日本の経験や蓄積してきた技術を活用することができる分野。

6) [II] の身体的安全は、国を超えて地域レベルで問題解決に取り組むべき分野。

7) [III] の社会の仕組みや社会設計は、政治制度、家族制度、環境対策など、それぞれの国の比較を前提に、今後の方向性を日本が積極的に示すことが期待される分野。

以上のうち、5)から7)は思いつきレベルであるが、日本の経験・技術・学術的知見をどう生かすのか、という観点から整理するとよいのでは？